



651
4
遠
45



好文堂

△山津伊

申

第一
書

市伽平家

四之巻

目録

明治三十七年
九月十一日
購本

通門
651
卷

一 橋より交深いお人のなまはれは遊人

はるばるといふる麻子の色巻

業いさゝめ急げ病と乳母が靴加減

心分は腹くさりと角をたははす類

第二

帝は元々茶店の娘が仕合は出た

たい名ある武士今いひ身はあまうた

取等の巻と掃拵と袷を帝とまきあふ

多紙お飾り道の秋俵はきけりまはせ

第三

擗氣がごとくそとまはし罪ち大ぬた居

娘の一人旅いほまゝい親とああり月

かぬ女と文作つて車合清水うら候あ

まは威光とあつて侍お切あまは擗し首

① 様より色原いあ人の座あのは盗人

それの初とい家ぞ吉舟とくうしる。梅の河は様河のさうりねえ。
ん物のまは神とつ縁てむれつあうも。おまやうとんといとりれ
る。様河の中油をば能いよん。おせ細き入る信あのと男あて。
ゆつは信あうとん今そ。様とまられておあひ。吉舟れをせやひ
おて。扇の四方はあまこの様と極れれい。まごの巻乃河言
よい。ん物れ人といあぬ。け文河あうる。平あひのたね。信あこの舞
君ぬまれい。人のまらひおめく。おたの巻ぬまれい。ゆよ不足
かたはあうれた。その巻れらすまらと款と。天照を神へ三七日
がる。それよりいとねむらる。秘めも細文ありて。廿日の余巻を
とあらしけい。信あのを金にああて。信人は銀よまて。ゆあ

ける様の縁いふてう。これ後のたふれを難くも。足牙のあてて心
かたれの中ぬきつ。是れはたは魚種を成花のうの方にあるし。この色紋
のぞく。はらうて奥でござ。かやすくじりま。めうける。は。方さ。い。は。さ。さ。
は。是。安。業。能。と。そ。を。ま。の。す。み。も。増。る。は。粧。い。巫。山。の。神。女。と。さ。ら。は。は。
ま。の。ゆ。け。と。さ。ら。揚。ま。の。大。ま。後。を。出。ま。の。端。と。お。や。り。向。容。
魚。婢。始。の。世。い。と。れ。ら。お。い。わ。け。お。中。お。断。ぐ。り。と。わ。さ。び。た。と。さ。い。
た。の。し。い。お。と。極。で。い。う。ろ。ろ。と。色。を。う。け。と。の。あ。さ。れ。い。と。極。と。や。す。その
か。ら。と。さ。る。ん。と。ふ。ん。と。さ。や。ま。い。だ。い。り。さ。ま。は。は。な。長。並。難。と。常。
し。ひ。う。あ。ま。か。り。は。して。さ。ら。や。う。ぬ。は。物。種。を。の。成。花。つ。い。さ。う。を。魚。
の。身。ま。も。さ。ら。は。り。と。お。あ。つ。い。た。う。あ。み。花。と。さ。ら。て。お。向。け。男。か。女。
し。も。と。い。ひ。ま。う。る。行。は。不。義。の。口。名。ま。ける。と。さ。ら。と。さ。ら。れ。は。い。派。
は。さ。ら。い。様。の。ま。う。お。中。に。て。う。を。極。い。足。物。入。お。の。う。い。極。め。と。お。して
ゆ。り。ま。り。お。極。の。い。く。と。ま。あ。れ。ら。る。所。ま。あ。の。行。お。七。極。難。難。
し。さ。ら。い。ま。て。好。方。へ。密。く。い。ま。さ。る。と。さ。ら。て。は。方。ま。の。人。と。の。け。華。
ね。の。古。側。近。く。ま。う。お。お。う。て。や。ける。い。た。後。を。長。長。成。花。つ。い。は。
お。さ。ら。中。は。一。家。は。お。の。中。ま。う。は。て。内。外。を。い。は。極。え。る。た。は。つ。ま。合。
と。い。や。が。奥。方。ま。ん。は。お。ま。く。出。お。を。と。い。ゆ。ん。お。身。の。男。女。ら。ん。を。
と。え。極。の。新。極。は。お。清。き。さ。の。は。耳。い。わ。く。入。ま。い。は。難。と。お。の。生。
つ。ま。は。と。ま。あ。の。め。く。は。く。と。極。め。さ。れ。ぬ。と。お。ん。お。家。の。は。一。か。も。す。い。
ア。お。身。の。は。お。も。ま。は。お。ま。い。旦。い。は。お。の。飛。極。向。は。い。は。を。極。あ。ら。て。
お。難。と。の。は。お。あ。わ。い。ぶ。お。通。は。は。お。合。お。う。と。ま。は。お。見。お。れ。は。は。は。内。
お。や。と。え。と。あ。人。よ。ら。と。れ。い。し。お。ふ。何。え。い。と。せ。と。あ。ぐ。り。切。て。や。は。と。い。難。
お。は。は。お。言。い。ら。して。お。あ。ぐ。と。じ。つ。が。せ。あ。ひ。が。は。細。と。押。の。い。お。て。
あ。七。と。は。お。持。る。刀。の。は。う。お。み。つ。と。自。害。せ。ん。と。ま。ま。い。い。お。難。お。ら。

一〇二



老人の
杖

うしろ
かた

さくら
花

町の
花



うしろ
かた

うしろ
かた

うしろ
かた

うしろ
かた

町
中
の
花

さくら
花

た。い。は。物。に。お。か。せ。あ。つ。う。今。は。自。害。ま。て。世。の。虚。死。が。返。つ。た。か。
お。果。お。た。れ。は。た。つ。ん。様。は。不。義。に。た。り。中。身。づ。う。れ。死。ね。の。世。等。り。
中。身。づ。う。の。お。う。は。よ。う。れ。や。事。と。ゆ。く。あ。ら。せ。あ。ら。せ。と。色。を。う。
て。割。け。は。り。ま。い。た。の。う。が。あ。い。ま。は。女。こ。こ。は。ね。ま。さ。れ。あ。ら。ね。た。お。
清。き。の。心。の。う。ら。も。不。義。の。悪。無。か。ど。て。親。一。門。の。あ。ま。志。と。し。の。
け。は。聲。と。あ。ら。ね。ら。う。に。と。し。母。の。不。義。と。う。づ。り。れ。何。の。面目。を。て。
あ。ら。ん。愛。と。と。め。で。死。な。せ。ら。れ。と。し。せ。う。う。と。ど。し。あ。ら。た。た。る。
和。云。梯。河。の。中。納。も。次。の。あ。ら。て。は。和。ま。と。や。ま。あ。ら。た。た。る。あ。ら。た。た。る。あ。ら。
ま。づ。娘。若。れ。は。自。害。と。と。あ。れ。叔。成。危。の。常。法。は。向。ひ。の。あ。ら。ら。ら。
筆。が。不。義。で。る。た。ら。う。は。院。今。い。は。威。花。と。い。ま。ま。が。ま。う。う。い。う。宮。の。
あ。ら。は。女。性。を。め。ら。な。と。筆。が。い。某。が。媒。と。い。は。屋。形。へ。嫁。入。し。て。
あ。ら。ら。ら。ら。筆。と。一。不。義。の。中。威。花。の。妻。向。の。あ。ら。は。た。ま。
子。細。や。と。い。ふ。人。は。わ。ん。と。し。建。ま。て。院。は。掃。き。う。ら。ん。の。所。の。
は。何。筆。も。信。守。せ。れ。を。た。な。長。あ。ら。ん。神。と。い。は。ら。ら。ら。あ。ら。た。た。る。を。
あ。ら。た。た。ら。ら。は。他。例。う。は。ら。と。と。ま。ら。い。は。乳。母。の。と。位。れ。つ。あ。ら。
あ。ら。は。和。云。和。云。の。は。お。と。事。の。筆。と。の。中。身。づ。う。の。つ。り。れ。は。
あ。ら。ら。ら。ら。平。の。清。き。の。筆。と。と。神。と。を。せ。れ。て。の。由。お。と。い。
の。つ。り。れ。と。い。ふ。あ。ら。は。筆。中。に。は。い。う。う。と。と。を。せ。ら。ら。ら。あ。ら。た。た。る。
後。親。が。と。と。け。と。い。の。を。和。云。の。お。れ。は。ま。ら。ら。ら。清。き。の。
あ。ら。た。た。ら。あ。ら。は。清。き。な。ら。ら。娘。と。と。も。や。や。ら。ら。ら。あ。ら。た。た。る。今。何。
よ。あ。ら。た。た。ら。あ。ら。は。筆。中。に。は。と。と。う。う。が。と。と。と。と。信。守。を。成。
と。と。と。と。の。あ。ら。と。と。と。と。娘。り。れ。の。子。孫。と。と。は。は。清。き。と。と。の。あ。
の。故。ま。の。門。の。あ。ら。ら。ら。の。許。り。立。入。は。は。ら。ら。ら。ら。と。と。と。と。と。と。
あ。ら。た。た。ら。あ。ら。は。筆。中。に。は。保。え。事。成。乃。筆。中。に。は。あ。ら。ら。ら。ら。と。と。と。と。

和云梯河



うらやま
おのれ
つれづれ

うらやま
おのれ
つれづれ

うらやま
おのれ
つれづれ



ちろろが
ゆえまらち

ちろろが
ゆえまらち



おのれ
つれづれ

おのれ
つれづれ

おのれ
つれづれ

おのれ
つれづれ

代りてお初初友お徳おつとせめとひい入言笑ふとるゝ高橋よ村
而して毎之供とて供々々といふ九世ととありきや久松久松のり
此の代は重なるて今まき中ぬ其の国をてらりのするをたげれば
の代海をてい供とてそのまほとに目とてて格とたれ今白は遠よ
格とてれとてとこの代供とてらとてとてとてとてとてとてとて
とてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
目ありてらとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
とおしめられければとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
命の格とてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
とつとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてと
あつたればとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
とてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてと
乃れお初初とてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
ねいお初初とてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
はあわとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
つひとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてと
お初初とてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
二つとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてと
とてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてと
長徳が代とてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてと
とてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてと
とてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてと
返言望むとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてと
娘お初初とてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてと
亦いお初初とてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて

長徳の代

長徳の代

しんとう
雲来すぬ素と探りて。びるの由達の持とわらひ。ぶらぶらねらるる。海が
ひらりうらうら。ぶらぶらねらるる。望の男。おまの娘君とて。和方ぶらぶらねらるる。
くわい。素と探りて。おまの娘君とて。和方ぶらぶらねらるる。望の男。おまの娘君とて。
おまの娘君とて。和方ぶらぶらねらるる。望の男。おまの娘君とて。和方ぶらぶらねらるる。
おまの娘君とて。和方ぶらぶらねらるる。望の男。おまの娘君とて。和方ぶらぶらねらるる。
おまの娘君とて。和方ぶらぶらねらるる。望の男。おまの娘君とて。和方ぶらぶらねらるる。
おまの娘君とて。和方ぶらぶらねらるる。望の男。おまの娘君とて。和方ぶらぶらねらるる。
おまの娘君とて。和方ぶらぶらねらるる。望の男。おまの娘君とて。和方ぶらぶらねらるる。
おまの娘君とて。和方ぶらぶらねらるる。望の男。おまの娘君とて。和方ぶらぶらねらるる。
おまの娘君とて。和方ぶらぶらねらるる。望の男。おまの娘君とて。和方ぶらぶらねらるる。
おまの娘君とて。和方ぶらぶらねらるる。望の男。おまの娘君とて。和方ぶらぶらねらるる。

西之巻終

好文堂

